

第0回奥出雲ウルトラおろち100キロマラニック大会開催

四月十九日、町内九地区の百十二キロをコースにした「奥出雲ウルトラおろち100キロマラニック大会」が開催されました。

「マラニック」とはマラソンとピクニックを合わせたもので、自分のペースでゆっくりと周囲の景色を眺めながら走るのが特徴。近年、競技人口が増えている、全国各地で開催されている人気の競技です。



▶まだ暗い早朝、一斉にスタート

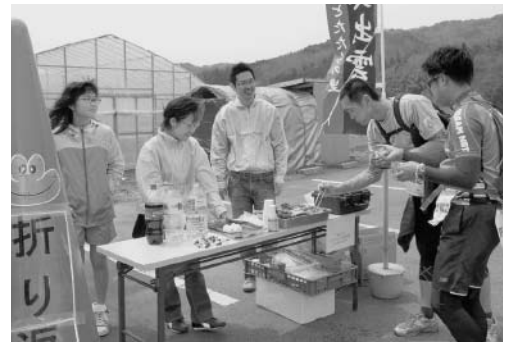
今回は、来年開催予定の第一回大会に向けた試験大会として、全国から二十五名のランナーが参加して行われました。

大会当日、夜明け前の早朝五時に発着点の横田運動公園をスタート。沿道には五キロごとにエイドステーションと呼ばれる休憩所が設けられ、実行委員会のメンバーやボランティアなどが、おにぎりやそば、フルーツ、飲み物など地元食材の捕食を提供し、ランナーをサポートしました。

ランナーは、起伏の激しい過酷な百十二キロを休憩を取りながら懸命に走り続け、午後九時前に最後のランナーがゴールし、十六名が完走しました。今後は、今大会の課題をもとに、第一回大会がよりよい大会となるよう準備が進められます。



▶午後五時十分、最初のランナーがゴール



▶エイドステーションの様子

「ダムに見える牧場」が完成

尾原ダムの自転車競技施設近くに「ダムに見える牧場」が完成し、記念式典及び見学会が四月二十二日に行われました。

この牧場は、亀高地区に1ターインされた大石巨太さんが経営するもので、鳥根県の新規就農支援を目的とした「新農林水産振興がらるる地域応援総合事業」を利用して、牛舎などの施設整備が行われています。



▶牧場経営を始める大石夫妻

式典では関係者や支援者など約七十人が見守る中、大石さんが「土地を提供いただいた皆さんの思いを全て聞いて、自分が目指す牧場の姿を考えぬいた。まずは良質な生乳を生産することが恩返しになるので、一人前の牛飼いになって皆さんの思いをつないでいきたい」と抱負を述べました。今後は、酪農だけでなく軽食やアイスクリームの提供など、観光にもつながるような牧場経営を目指されます。



▶牛舎を見学する関係者

春の叙勲 旭日双光章 福本 修さん(大呂)

福本さんは、昭和56年10月、旧横田町議会議員に当選して以来6期23年5か月、合併後の奥出雲町議会議員として2期8年の永きにわたり、道路網の整備、農業基盤の整備、福祉施設の整備促進など地方自治の発展と住民福祉の向上に貢献されました。

また、横田町議会副議長を4年、同議長を3年、奥出雲町議会副議長を7年、同議長を1年などの要職を歴任され、豊富な経験と卓抜なる識見により円滑な議会運営に寄与されました。

これらをはじめとする多数の功績により、今回叙勲の榮に浴されました。



奥出雲酒造(株) 出雲杜氏自醸清酒品評会で最優秀賞

出雲杜氏が醸造した新酒の出来を競う「第63回出雲杜氏自醸清酒品評会」で、奥出雲酒造(株)の「奥出雲仁多米」が初の最優秀賞に選ばれました。同時に、奥出雲酒造(株)の製造課長で一級酒造技能士の森井康隆杜氏が鳥根県知事賞を受賞されました。

森井杜氏は「今後も精進してさらに良いお酒を作っていく」と意気込みを語られました。



▲県知事賞を受賞した森井杜氏

～ヤマタノオロチが登場～ 蔵屋おろち花田植

今年で3回目を迎えた「蔵屋おろち花田植」が5月5日、横田地区蔵屋地内の水田で実行委員会(松浦昇会長)の主催で行われました。

この花田植は、おろち神話を取り入れているのが特徴。田植えの前には、山から色とりどりのヤマタノオロチがワイヤーを伝って登場しました。全部で八頭のオロチに見守られる中、オロチに扮した男性と、稲田姫をイメージした古代衣装に身を包んだ30人の早乙女が田植え歌に合わせて苗を植え、見物客を楽しませました。



▲古代衣装に身を包んだ早乙女による手植えの様子



▲「花牛」が見事に演じられました